

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200090		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター龍神	【ユニット名:ばーど】	
所在地	〒645-0417 和歌山県田辺市龍神村柳瀬1143-1		
自己評価作成日	平成26年7月7日	評価結果市町村受理日	平成26年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3092200090-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ1年で各慰問団体や、個人の方たちの訪問が少しずつ増えています。特に参加型のイベントを開催する事で、より密着した交流が図れています。ホーム内にある畑を利用し、季節の野菜や花を一緒に育てる事で、出来上がる過程を共感し、喜び合える事を大切にしています。また、地域に根付いた施設を目標に、イベントに利用者が作成した作品を出展したり、地元の食材を購入し食事時に出したり家族会などのおやつに提供するなどし、積極的に地域交流を図る事を事業所としては力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間にある開所4年目のホームである。周辺を散歩した時に摘んだ山菜や、ホームの畑で育て収穫した野菜が食卓に上がることもある。地域交流に力を入れ、地元の職員もいるので、子どもから大人まで交流の輪が広がっている。事業所主催の夏祭りや避難訓練には近隣からの参加もみられる。地域にある他の事業所施設とも交流を持ち、地元の文化祭は職員が文化祭委員として参加し手伝い、利用者の作品を出展しているところから、それぞれの取り組みに対して各委員を配置し、一人ひとりが意識を持ってサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境と地域の方々との交流の下で、いつも笑顔を絶やさずご入居様がそれぞれの能力に応じた日常生活を送れるように支援させていただきます。」ミーティングや研修の前に唱和し実践するようにしています。	理念の実践にむけて、地域交流に力を入れて交流の輪を広げているとともに、家庭的な環境の中で本人の意向や変化の気づきを大切にして生活できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政局近隣の社会福祉協議会、小学校、老人会等との交流を行っています。地元の文化祭への作品出展を行う。慰問団体などにも来て頂き交流が図れている。	歌や踊りのボランティアや、保育園児のパレードなどの訪問があり、小学校の運動会にも出かけている。また、事業所主催の夏祭りには地域住民に参加を呼びかけ、隣の事業所施設とも行事等での交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元在住のスタッフが多いので、地域の方との会話の中で、介護上の悩みなどを聞き、必要に応じてアドバイスなどを行う。また随時施設の見学会を開催し、地域の方々に理解してもらい易い場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。地域のイベントなどの情報を頂いている。自施設の行事予定や状況報告を行っている。また、施設の取り組みについて相談や提案をしていけるように努力している。	社会福祉協議会、行政局福祉課長、民生委員、地区区長等の参加で、事業内容の報告を行い、地域の行事や職員の人材確保等サービスの質の向上に繋がる話し合いをしている。	会議のメンバーの一員として、利用者や家族が参加できるように日程を調整したり、会議内容をより充実させていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は行政局の福祉課長や社会福祉協議会の職員が参加してくれています。	市・行政局の担当者、社会福祉協議会との連絡や相談が行われている。市の文化祭の運営委員として職員が参加し、協力関係を築くように取り込んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について社内研修などを行い、拘束について学び拘束のない支援を行っている。	担当する委員を中心に職員研修を行っている。日中は玄関の施錠をせず開放しており、ベッド柵など、家族からの希望があっても拘束をしない支援について説明し、理解を得るように努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止については、ミーティングで話し合い意識付けを行っている。虐待のない支援を行っている。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要な方は発生していません。今後も介護保険制度の研修の中でスタッフにも一つの知識として伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、納得してもらってから、印鑑を頂きます。読み返して質問があれば、後日でも再度質問をもらい、説明をしますと伝えます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度家族会をイベントと組み合わせ開催しています。なかなか全員参加となりませんが、参加出来ない家族には書面でお伝えしています。	行事と合わせて家族会を開催しているが、参加者は限られている。法人で実施している家族アンケート内容について会議で話し合い、対処を図っている。家族には毎月送付する「龍神だより」で日頃の様子を伝えている。	更に、利用者や家族が普段から何でも話せて、意見や要望も出しやすい雰囲気づくりを心がけ、それを運営に反映させることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案は、業務ミーティングの議題に挙げみんなで検討し、共有できることは反映させている。	管理者は個人面談、スタッフノート等で出された意見や要望について話し合う機会を設け、全員で共有して会議で検討している。法人本部にも要望を伝えて、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度や各自の役割を明確にして、意欲的に勤務出来るように工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の機会を設けています。近隣の施設の研修にも参加するようにしています。外部研修の情報などをスタッフには伝え参加の促しをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて他の同業者との意見交換などを行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報提供を行い、施設入居するまでに本人の要望等に答えられるよう担当ケアマネや家族と密な連携を図り安心感を持って頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問し、家族の話を聞き、出来るだけ安心感を持って持ってもらえるようにアドバイスも行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のCMとの連携を蜜に取りながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳の念を忘れないように、家庭的な雰囲気の中で家族のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	中立な立場の中で、本人と家族が穏やかに過ごせるような支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スタッフとの会話の中で、昔の懐かしい話したり、歌を歌っています。また遠方の方にはなかなか出会うことは難しい為電話での会話で繋がりをもってもらう。	地域の行事への参加は、地元の利用者が顔なじみの人に会う機会となっている。地域のボランティアが訪問して、なつかしい童謡と一緒に歌っている。家族と話し合った上で利用者の馴染みの呼び名も使っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際や片付けの時には、利用者同士での会話がある。新規の利用者が入居するときには、すぐに利用者同士が馴染んで頂けるようスタッフが支援する。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居の際には、本人や家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望がある利用者については、なかなか思い通りには叶えてあげられないが、ここが安心できる居場所と思ってもらえるような、雰囲気作りには努めている。	日常の会話や表情、行動から本人の思いを受けとめることを大切にしている。困難な場合は、家族から入居前の情報を集めて、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時にある程度の話しは聞きますが、入居されてから、ご本人との会話の中でも把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が自宅で過ごしていたペースで過ごしていただけるように工夫しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子についての気付きを共有し、業務ミーティング時に話しあい、現状に即した介護計画を作成しています。	本人の要望や、状態の変化に気をつけ、家族とも話し合っアセスメントし、現在必要な計画を作成している。介護保険の変更時、入院、退院等利用者の現状に合わせてその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個々のケアプラン表を添付し常にスタッフが気付きを記入し情報を共有し計画書の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の関係諸機関と連携し取り組んでいます。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店の商品を購入するなど少しずつではあるが、地域資源の情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医については定期的な往診があります。メンタル的な受診については、出来るだけスタッフが同行し、日頃の状況を詳細に伝えるようにしています。	協力医療機関の医師の往診や訪問看護は定期的にある。個々のかかりつけ医への受診の送迎は家族が行っているが、必要に応じて介護タクシーを利用したり、職員も同伴し日頃の状況を伝えるなどしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回や緊急時の訪問看護を利用しています。各利用者担当スタッフが状況を記入し、訪問看護からのアドバイスを記入してもらう帳票にて、スタッフ全員で共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	営業を含めて各病院の地域連携室とは交流があります。入院時・退院時には調整を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来ること、出来ないことを家族に説明し、利用者にとって良い終末期を迎えられるように、医師や看護師との連携に努めている。	事業所でできることを説明して、本人・家族と話し合い、医師、看護師と連携して行けるよう取り組んでいる。家族の宿泊もでき、以前には看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応については訓練を行っています。119の要請時には慌てないように、必要事項を的確に伝える工夫をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練を行っています。社内研修では常に危機感を持つように努めています。非常食や緊急持ち出し袋については、季節や賞味期限のチェックも行っています。	法人が作成しているマニュアルを元に防災委員会を中心に研修を行い、消防署の協力で火災の避難訓練を行っている。以前の水害の経験から備蓄や持ち出し袋を用意し、今年の訓練は、老人会からの参加もあった。	災害は何時起こるか、わからないので、想定外の訓練を行うことが望まれる。今後は災害時の地域との協力体制を築いていくことが望まれる。

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳とプライバシーへの配慮について、スタッフ全員が認識をしており、言葉かけには十分に留意しています。	一人ひとり人生の先輩として尊重し、ケア委員を中心に全職員で、プライバシーに配慮した声かけを行い、同性介助等、利用者に向けた対応をするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを自己決定出来るようにしていますが、言葉で表現出来ない利用者もいるので、態度や表情で察知出来るように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添うように努めてはいますが日によっては、職員の体制上希望に添えない日もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問カットや近隣の理髪店を利用しています。個人の身だしなみとしては、自分で出来ることは、して貰っているが、出来ない方の支援はスタッフが行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が別メニューとはいかないが、なるべく個人の好みを配慮した食事作りをしています。スタッフと一緒に食事は、食材料費負担の事も出来ていません。	畑でとれた野菜や散歩中に採った山菜もメニューに取り入れ、誕生日には好きなものを入れたり、利用者のリクエストにも応じた楽しい食事になっている。利用者が出来る範囲で、後片付けの手伝いも行っている。	食事がより楽しみなものになるように利用者が職員と一緒に、同じ食事を会話しながら楽しめるような取り組みにも期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて、食事量や水分摂取量の把握を行っている。体重の変化に伴い食事量やバランスを見直している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の能力に応じた口腔ケアを行っています。異常発生時には、提携歯科医の往診で対応しています。食事前には口腔ケア体操をしています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が出来るように支援を行っています。排泄の訴えがない利用者については排泄パターンを把握し、スタッフが誘導を行うなどの工夫をしている。	排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせて声かけや誘導を行っている。夜間はポータブルを使用する利用者もいる。トイレの入り口の床に夜間に光る目印を取り付けて、分かりやすくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給も各自のマグを用意し飲用して頂ける工夫をしている。食事にも繊維質の食材を使用するように努めている。各自の能力に応じた運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添った入浴ペースには、配慮していますがスタッフが勤務体制上時間帯の制限はあります。	午前と午後に利用者一人ひとりの希望に合わせて順番を決め、誘導を工夫している。入浴は同性介助を基本として本人に合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような環境を作れるようにしています。夜間眠れない時には、夜勤スタッフとリビングで過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携で理解ができています。また薬剤師の方に来て頂き薬についての研修を行って頂きました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に応じた役割を持ってもらい、意欲的に生活をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他の利用者の状況でスタッフが外出に付き添えない場合もあります。今年に入り恒例行事のジャンボタクシーを利用しての外出が出来ていません。(タクシー会社の都合上)	歩行困難な利用者も車イスを利用して、できるだけ戸外へ散歩に出かけるように支援している。車による個別の外出は、法人の体制やタクシー会社の都合で制限されているので、主に家族の協力で行われている。	法人の方針もあり、職員による車での外出は限られるが、少しでも外出する機会が増える事を期待する。

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ばーど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持すると紛失する可能性があり、貴重品は事務所金庫で保管していますが中には、認知症状の物取られ妄想が強い方についてはお金をこちらで預かることが出来ない為本人が所持しています。紛失にならないような配慮を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば何時でも対応します。ご家族からの電話があればいつでも取り次ぎます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日には窓をあげ自然の風を感じてもらっています。	リビングの窓からみえる広い庭では花や野菜を育てている。庭に続くテラスの洗濯物や布団干しに生活感が感じられる。テーブルの席は一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室に戻れるように配慮しています。居室で過ごされる利用者については状況の把握を行うようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについてはご本人・ご家族に任せています。	居室の入り口には家族が書いた名札が掲げられている。居室には個人の生活に合わせて、ベッドやマットレス、好みのものを持ち込むなど、その人らしい生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ・リビング等共有スペースの随所に手すりを設置しています。トイレの位置が分かり易い工夫や、車椅子でも利用できる洗面所の工夫があります。段差が無く、エレベーターの設置もしています		